

[年度]平成 27 年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 極早生柿新品种の特性解明と栽培技術の確立

[担当機関名] 果樹試験場かき・もも研究所

[連絡先]0736-73-2274

[専門分野] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

9 月に出荷できる柿は高単価で取引されることから、県内で生産が増加しています。このたび県内で‘刀根早生’の枝変わりとして発見されました‘堀内早生’及び‘紀北川上早生’の品種特性を明らかにしました。また、極早生柿で問題となっている生理落果及び着花過多による摘蕾の繁忙化について、ジベレリン処理による生理落果軽減対策及び芽かきによる摘蕾の省力化を検討しました。

[研究の成果]

1. ‘堀内早生’は9月上旬中旬に収穫可能で、果実は腰が高い果形が特徴で、果汁はやや少ないが、糖度は14~15%程度で‘中谷早生’と大差なく良食味です。また、他の極早生柿に比べて着蕾が少ない特徴があります。(図1、表1)。
2. ‘紀北川上早生’は9月上旬中旬に収穫可能で、多汁で糖度が13~14%程度で‘中谷早生’と大差なく良食味です(図2、表1)。
3. ‘紀北川上早生’で満開10日後にジベレリン50ppmを幼果及びへたに散布することにより既存の対策である環状はく皮と同等に生理落果が抑制されます(図3)。
4. ‘中谷早生’で20cm以上の結果母枝について、4月中旬に結果母枝あたり結果枝4本を除去する(芽かき)ことによって、摘蕾の作業時間が30%程度削減でき果実が大きくなりますが、収量が減少しました(表2)。



図1 ‘堀内早生’の果実



図2 ‘紀北川上早生’の果実

表1 ‘堀内早生’、‘紀北川上早生’、‘中谷早生’の生育ステージおよび果実品質

品種名	年次	満開期	収穫盛期	果実重 (g)	横径 (mm)	縦径 (mm)	糖度 (Brix)
‘堀内早生’ <sup>z</sup>	平成25年	5月15日	9月12日	197	79	52	15.4
	平成26年	5月17日	9月11日	224	81	57	14.6
	平成27年	-	9月10日	255	85	62	13.9
‘紀北川上早生’	平成25年	5月17日	9月12日	184	81	52	14.2
	平成26年	5月18日	9月11日	180	79	51	13.4
	平成27年	5月11日	9月11日	211	-	-	13.4
‘中谷早生’	平成25年	5月15日	9月12日	177	76	48	15.4
	平成26年	5月14日	9月11日	205	80	52	13.1
	平成27年	5月10日	9月12日	202	-	-	13.5

z: ‘堀内早生’、‘中谷早生’は紀の川市、‘紀北川上早生’はかつらぎ町で調査した

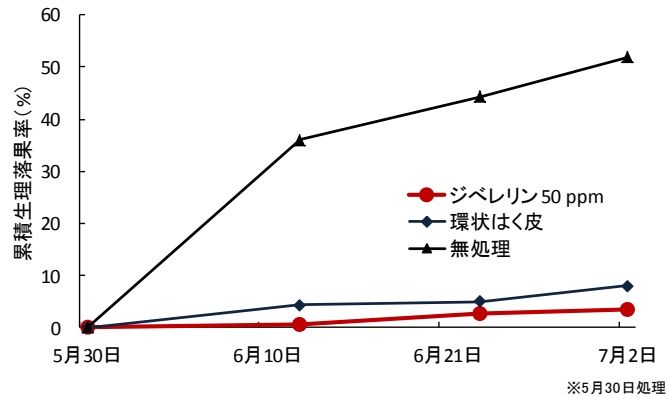


図3 '紀北川上早生'のジベレリン処理による生理落果抑制効果

表2 '中谷早生'の芽かきによる摘蓄作業省力効果

処理方法	芽かき数 (本)	新梢数 (本)	摘蓄数 (個)	摘蓄時間 (分:秒)	収穫果数 (個)	1果平均重 (g)	収量 (kg)
芽かき <sup>z</sup>	47	237 (78) <sup>y</sup>	855 (71)	19:54 (69)	62 (71)	236 (106)	14.5 (74)
無処理	-	303 (100)	1210 (100)	28:39 (100)	87 (100)	222 (100)	19.4 (100)

<sup>z</sup> '中谷早生' 14年生樹1主枝当たりの数値

<sup>y</sup>( )内は無処理区に対する割合を示す

#### [成果のポイントと活用]

1. '堀内早生'と'紀北川上早生'は9月上中旬に収穫できる良食味の極早生品種です。ただし、出荷先のJA等によって取り扱う品種が異なるため、導入にあたっては出荷先にお尋ねください。
2. ジベレリン処理により生理落果が大幅に抑制できます。ただし、年によってわずかに着色が遅れる可能性があるため、今後最適濃度を検討する予定です。
3. 芽かきは、結果枝の間隔を適度にあけるように取り除きます。芽かきにより摘蓄時間が30%削減できますが、収量が減少するので、仕上げ摘果のときにやや果実を多く残すことで収量の減少が抑えられます。

#### [その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業）

研究期間：平成25～27年

研究担当者：熊本昌平、江川明日香

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可